

私たちの日本語教室・日本語教育 プログラムを点検してみよう！

～指導力評価に関するチェックシートを活用してPDCAサイクルを回そう～

一般社団法人グローバル人財サポート浜松 堀 永乃

「生活者としての外国人」に対する日本語教育の目的・目標

▶ 目的

言語・文化の相互尊重を前提としながら、「生活者としての外国人」が日本語で意思疎通を図り、生活できるようになること

▶ 目標

- 日本語を使って、健康かつ安全に生活を送ることができるようにすること
- 日本語を使って、自立した生活を送ることができるようにすること
- 日本語を使って、相互理解を図り、社会の一員として生活を送ることができるようにすること
- 日本語を使って、文化的な生活を送ることができるようにすること

5点セットを見てみよう！

- ▶ カリキュラム案
- ▶ 教材例集
- ▶ ガイドブック
- ▶ 日本語能力評価
- ▶ 指導力評価

指導力評価について①

▶ 目的

「生活者としての外国人」に対する日本語教育を行う上で必要な能力一般ではなく、「生活者としての外国人」に対する日本語教育をカリキュラム案等を活用して行う上で必要な能力について評価することにより、その向上を図り、「生活者としての外国人」のニーズにより一層応えうる日本語教育の実現につなげる。

▶ 対象

評価の対象は、カリキュラム案等を活用して、地域の状況に応じた日本語教育プログラムの実践をPlan（計画）、Do（実施）、Check（点検※企業では評価とする）、Action（改善）サイクルに基づいて行う能力とする。

指導力評価について②

▶ 評価対象者

地域日本語教育指導者（直接的指導を行う）

地域日本語教育コーディネーター

} 実践者

▶ 評価者

自己評価が基本

▶ 評価の方法

指導力評価に必要な項目の一覧から自らの役割として必要な項目を選択して作成するチェックシートを用いて評価

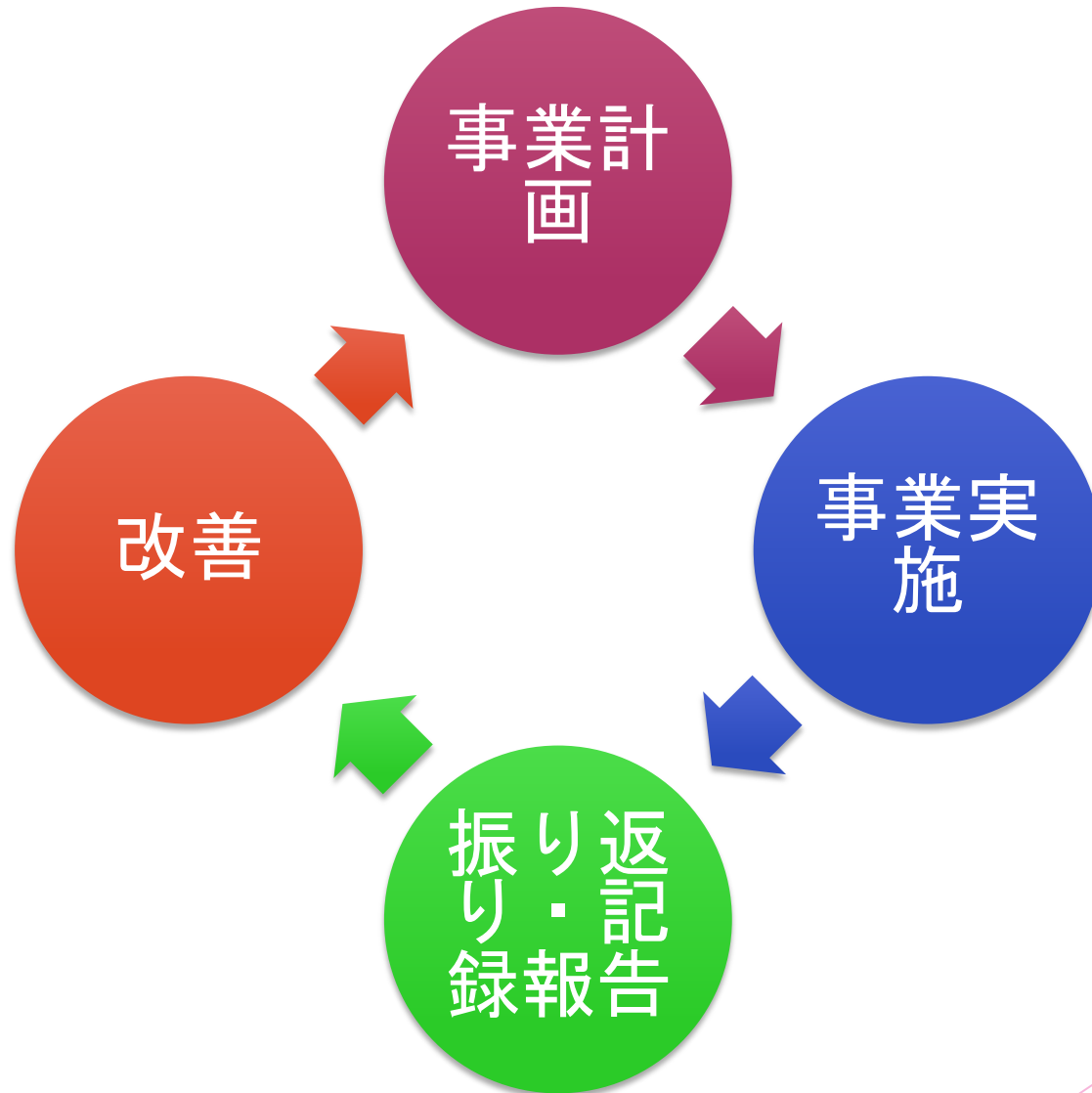
役割として必要な項目を選択してシートを作成

Plan-Do- Check-Actionの別		対象例		評価の記録			
	指導力評価項目	指導者	コーディネーター	選択項目	①月日	②月日	③月日
Plan(企画)							
I 地域や外国人の状況の把握							
1. 地域の外国人の状況の把握							
(1)地域の外国人の状況や学習者の状況を把握している							
1) 地域の外国人の増減とその理由を把握している			○				
2) 学習者がこれまでに日本語学習をどの程度行っているか把握している		○	○				
3) 学習者がこれまでに言語学習をどの程度行っているか把握している		○	○				
4) 学習者の年齢, 職業, 家族形態などを把握している		○	○				
5) 学習者の学習環境(辞書やオーディオ機器・PCなどを所有しているか, 日本語学習に協力してくれる人はいるか, どの程度日本語学習に時間を割けるかなど)を把握している		○	○				
6) 学習者の使用言語とその使用場面, 日本語でのやり取りが求められる場면을把握している		○	○				
(2)学習者のニーズを把握している							
7) 学習者が生活面で課題として抱えていることを「今できないと困ること」「今できるようになりたいこと」「今後できるようになりたいこと」「いつかできるようになりたいこと」に分類するなどし把握している		○	○				
8) 学習者が求める教室活動の方法や教材などを適切な方法で把握している		○	○				
2. 地域のリソース等の把握							

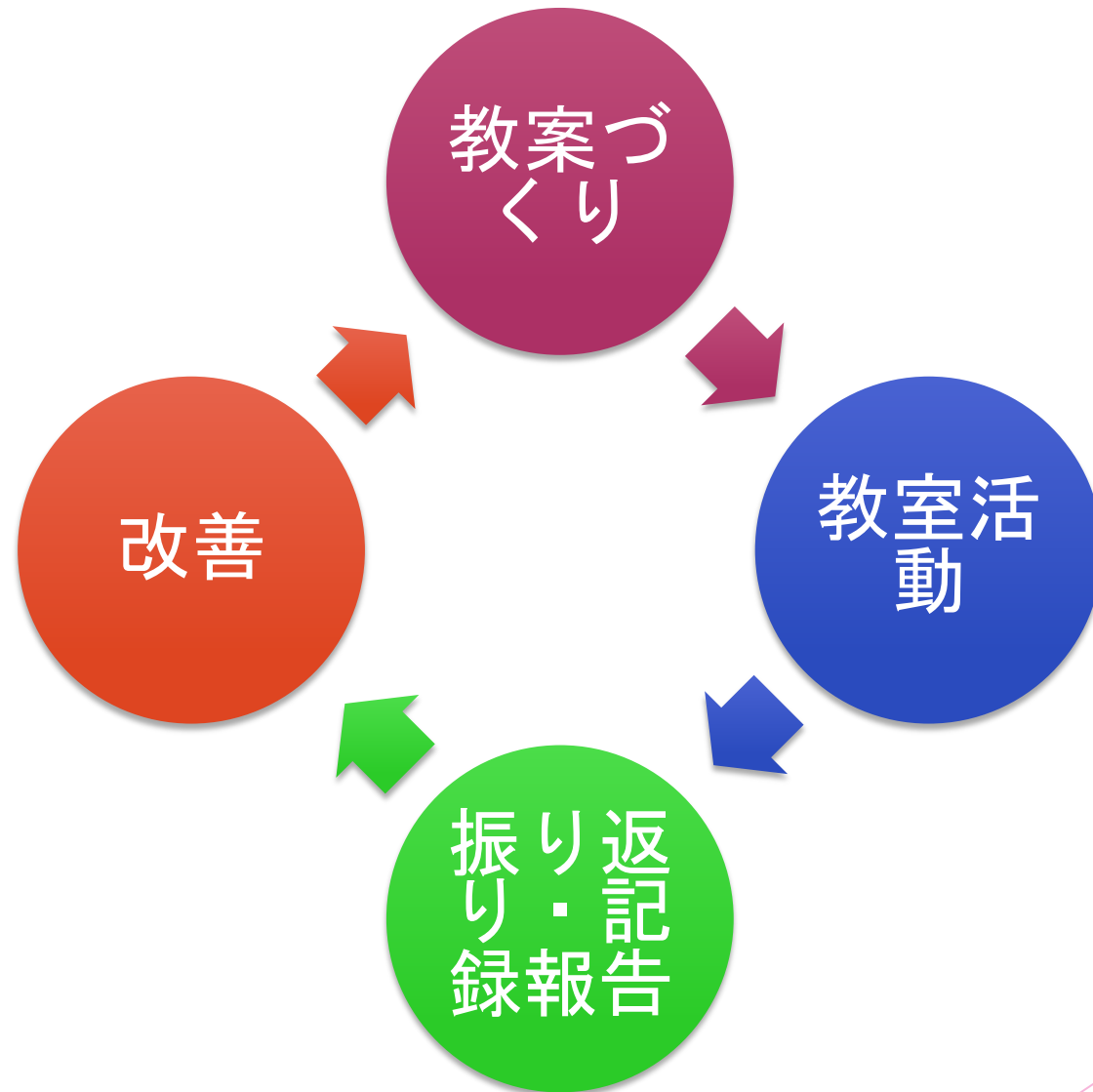
PDCAサイクルとは



PDCAサイクルとは コーディネーターの場合



PDCAサイクルとは 指導者の場合



PDCAサイクルを極めるポイント！



ワークショップ①

指導力評価項目一覧を分析してみよう

- ▶ 項目はどのように分かれている？
- ▶ 項目内容に不足しているものはある？
- ▶ 役割別に項目内容を分けてみると？

ワークショップ②

指導力評価項目一覧（全体版）を使って Yes No で評価してみよう

▶ Plan

I 地域や外国人の状況の把握

1. 地域の外国人の状況の把握

（１）地域の外国人の状況や学習者の状況を把握している

☐Yes ☐No

（２）学習者のニーズを把握している

☐Yes ☐No

2. 地域のリソース（物的・人的資源）等を把握している

私は「外国人人口」や「外国人の生活実態」を把握してるかしら??

彼らはなぜ日本語を勉強したいのかしら?? 日本語ができたなら何がしたいの??

事業運営のポイントは6W1H

▶ ニーズの2W1H

なぜ（意義と原因・背景のWhy）、誰・何のために（for Whom）、どの程度まで（How far）

▶ 手法・プロセスの3W1H

何をどのように（What&How）、いつ（When）、どこで（Where）

▶ 資源の1W1H

誰が（Who）、支出・収入（How much）

地域日本語教育に当てはめてみると（例）

▶ ニーズの 2W1H

なぜ（意義と原因・背景のWhy）→理由 例）生活上の日本語、来日したばかり
誰・何のために（for Whom）→対象、多文化共生 例）日本人の配偶者
どの程度まで（How far）→期間・目標 例）3ヵ月で入門レベルを習得する

▶ 手法・プロセスの 3W1H

何をどのように（What&How）→学習項目・内容、活動、形態など

例）カリキュラム案を活用した教材でボランティア教師による1対複数型

いつ（When）→曜日や時間 例）毎週日曜日の朝10時～12時

どこで（Where）→場所 例）文化センターや公民館

▶ 資源の 1W1H

誰が（Who）→資金元 例）行政の委託金

支出・収入（How much）→例）税金、民間企業、受講料

ワークショップ③

チェックシートづくり 1

▶ 事例 1

来日して半年の中国人の女性（34）は、日本語がほとんどできず、家族同士の会話に困っていました。そのため、2か月ほど週1回生活のための日本語をボランティアと1対1で学ぶことのできる教室Aに通っていましたが、先週から突然教室に来なくなりました。

▶ 課題 受講者が継続して日本語教室に通わない！

この日本語教室の課題を解決するために必要な評価項目を指導者の立場からあげてください。

ワークショップ③

チェックシートづくり 2

▶ 事例 2

ブラジル人の男性ら 3 人の相談。3 人はいずれも同じ自動車部品工場で夜勤をしている。仕事のため日本語をもっと勉強したいと日本語教室を探しているも、仕事の時間と既存の教室では場所が遠いため思うように通うことのできる教室がない。

▶ 課題 ニーズに合う教室がない！

彼らに合う教室を開設するための評価項目をコーディネーターの立場からあげてください。

事例 3) 外国人研修生のための日本語教室にて

新規開講前から開講初日

ニーズ調査

- 研修生への対面式ヒアリング
- プログラム計画

設置準備

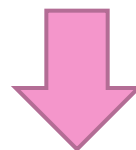
- 日程決定、会場確保
- 店舗や機関での広報活動

課題勃発

- 参加者は当初 1 名
- コーディネーターと指導者が課題分析

チェックシートから

- ▶ I 地域や外国人の状況の把握
2. 学習者のニーズ
- ▶ II 日本語教室の目的の設定
17. 学習者の社会参加
- ▶ III 具体的な日本語教育プログラムの作成
26. 互いの社会、文化について学ぶ



コーディネーターと指導者が
共有し、解決に向けて取り組む

学ぶ内容が受講者に
きちんと伝わっていなかった！！

的確なニーズ把握と活動内容の改善により、口コミで受講者が増加！



ワークショップ④

今の自分と既存の教室をCheckしてみよう

指導力評価について③

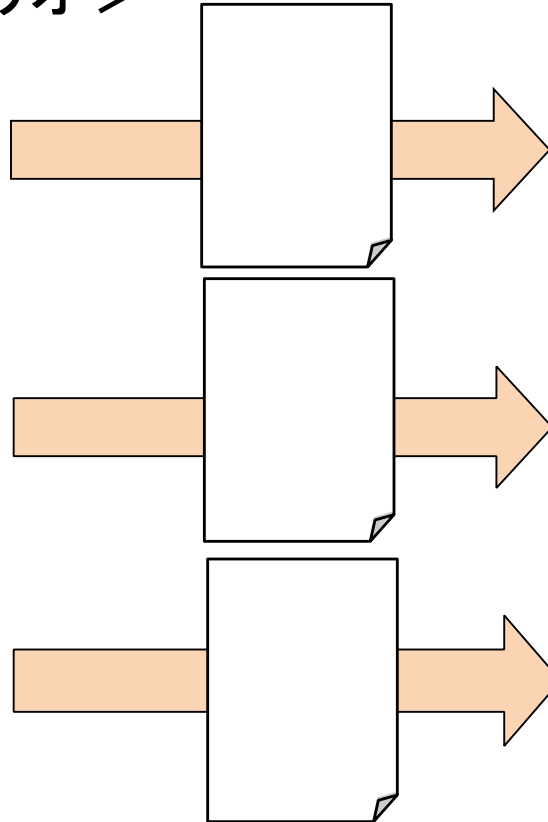
- ▶ 記録報告の5W1H（いつ、どこで、だれが、何を、どのようにしたのか）

＜日本語指導力ポートフォリオ＞

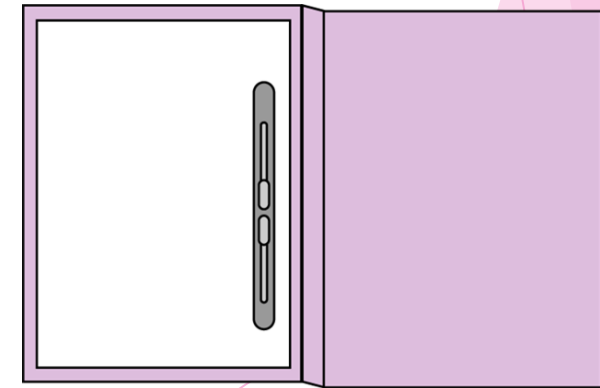
○指導力評価に関する
チェックシートについて

○日本語教育プログラムの
実践の記録について

○研修受講の記録について



指導力ポートフォリオ



まとめ 「評価」は「成果」

- ▶ これからどう変わっていく（改善される）のかが大切→こうなっていきたい未来を描く（中期計画と長期計画で）
- ▶ よりよいプログラムづくりのために「誰のための」「何のための」活動か→WantsではなくNeedsを
- ▶ 日本語教育が多文化共生社会に資するためには、社会がどう変化したか（参加者や協力者の数、機関同士の協働）が重要→市民に「共感」が得られる教室（事業）づくりを！
- ▶ コーディネーターと指導者が連携・協働してチェックシートを作成すると課題の共有がしやすい→役割分担の明確化

ありがとうございました